

つぎに文書の概要を示せば、文書は国立科学博物館に一九七五年、
遺族から寄贈された。資料点数は、著書・翻訳書類九点、雑誌類六

載されている以外には花房吉太郎編『日本博士全伝 全』（明治三十五年八月、
博文館）などがある。

尾は東京大学副総理であり、日記に記された四学部とは法医文理学

部が東京大学の改組問題を承知していたことを示す記事である。浜
（『検印録』明治十八年）。理学部部会は日記の限りでは第三週の火曜
囲の拡大と解釈できるのか。「洋文雑誌」とは大学紀要を示していた

五十年來之中國經濟史

門学務局長来レリ大学令案ノ事ヲ議ス

東名公不役ナリニハ諸官ハ各重ク思ハシテ居ル。長官諸官を推記
しておこう。

六月 五日 (金) 朝改正帝臣大学令ノ事ニ付文部大臣ニリ説語ア

リタルニ付文部省ヘ行ク

右の大学制度改革に関する記事は、評議会の記録とも一致してお

六月 二三日 (金) 午前大学評議官ノ連中栞会シ農科大学ノ事ニ付

キ議シ午後ヨリ文部省ニ行キ大臣ニ面会シ右大
学ヲ設クル事ニ付評議官ニ相談ナキノ理由ヲ紀

佐野(一)「ス第一二三系等」カ藤弘(一)「下言」(多田)の言重なる(一)大か
早い時期から合併問題が発生していたことがわかる。しかし、これ
がのちの合併問題につらなると解釈するのは早計すぎるであろう。このほ

死去後であったことは明瞭である。まず、非職前年の状況を記し、
ついで、矢田部と加藤弘之、菊池大麓との関係を示して、最後に非

展白に付月層参見かと本ほど多岐か「秘密事に通はれたるか 彼の

日てあゝた 送中の十一日(木)の夜に「文部大臣(美川显山)」三

日語大の明眼はあゝ「ノオ」(明治三十三)年三月二十五日の参り

「ノオ」(明治三十三)年三月二十五日の参り

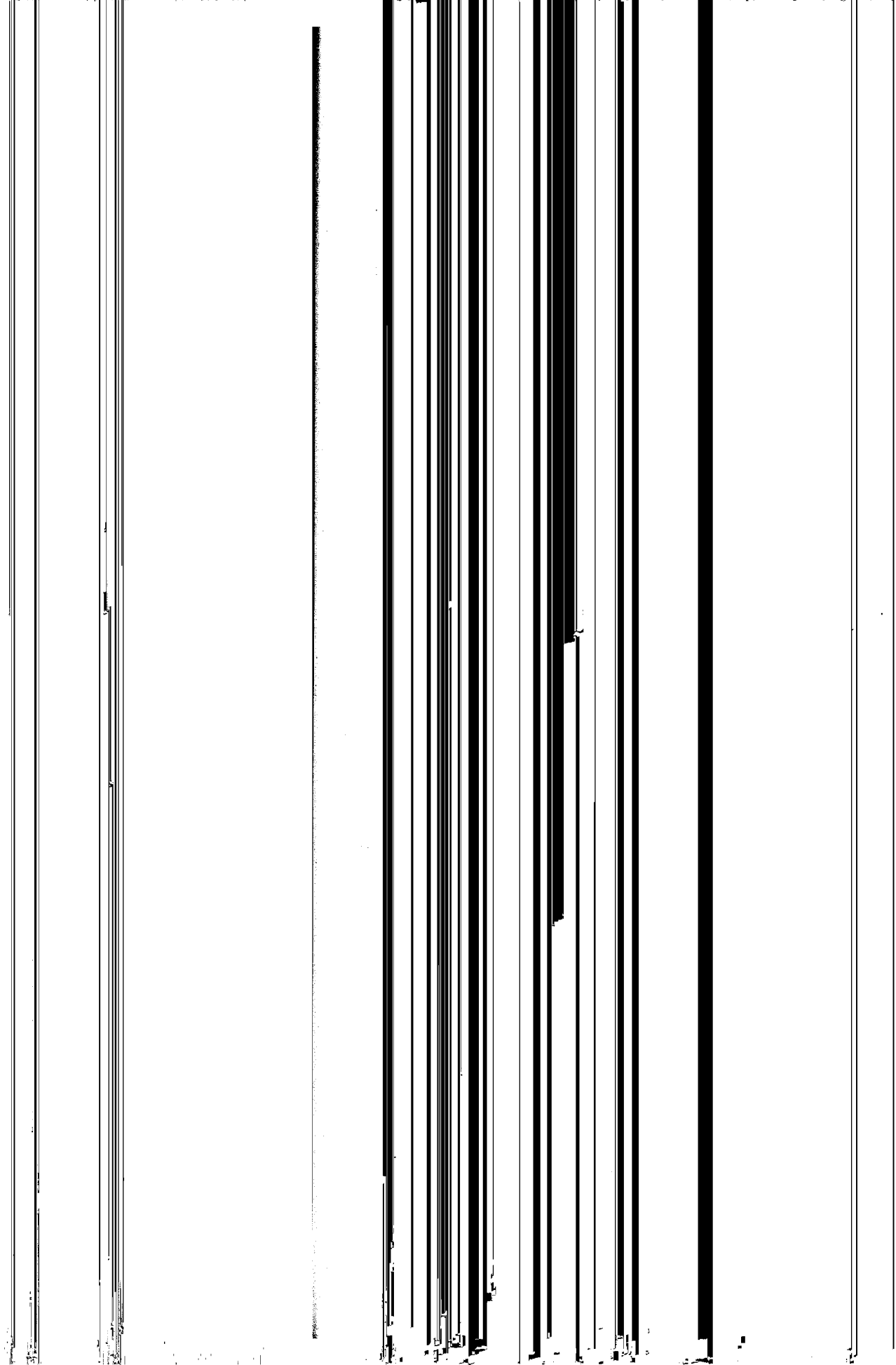
「そのの」
「ナ」
「日言はは十月」
「日の新田総長の遊園地の」
「遊園地」

「(一)」

まにまにナ 金やの多分 ここのノスとE 昔もホミししつたの

1. 10. 10

と、してこのまがノ国が行オオナの大 復のE 言んぞのE 言ん



字のび草に 藤田か不は世の名文権たどしのみた。す 藤田に大寺
内に知友多くして、意志の疎通行はれ易かりし。」^(三)

(なかの) みる 藤田不台は史家三三三三三